

目指せ！ 銚子をジオパークに！

「ジオパーク」活動②

私たちが銚子を知り、銚子を好きになる。



▲余山貝塚での環境美化活動（余山町内会ほか・平成23年10月23日）
地元の文化財の価値を理解し、その価値と魅力を、清掃活動などをおして積極的に後世に伝えようとするこも、ジオパーク活動です。

皆さんは銚子のまちが好きですか。

この地で暮らす私たちにとって、来訪者が感じるような銚子の魅力は全てが日常のものであり、あらためて感じることは少ないかもしれせん。

温暖な気候や空気のおいしさ、海の幸をはじめとする新鮮な食材を食べられること、風光明媚な景観があることなどは、全て銚子の大地がもたらすかけがえのない魅力であり、全国に誇れる宝物です。

その宝物の価値を再認識することで、今以上に銚子を好きな市民が増えることが、まちを活性化させる原動力になります。

「銚子には何もないよ」、または「よそと一緒だよ」などとは言わずに、もう一度、私たちが暮らしている大地からの恵みを見つめ直してみることが、ジオパーク活動のはじめの一步といえるものなのです。

銚子に住んでいる私たち自身が銚子の魅力を再発見し、全国に発信し、まちを元気にしようと動きだすことが、ジオパーク活動の根幹になるのです。

まずは私たち自身がふるさと銚子にもっと興味関心を持ち、まちの成り立ちを知り、こんなに素敵なまちで生活していたことをあらためて感じ、その魅力を自分たちの言葉で語りはじめてみませんか。

今月の表紙



勇壮な“お浜降り”
東大社 桜井御神幸

男たちが利根川にみこしを担ぎ入れ、大漁満足、航海安全を祈願する東大社 桜井御神幸の「お浜降り」が4月14日(土)、桜井浜(桜井町公園の利根川岸)で行われました。

この行事は、荒れた海を鎮めるため、令和4年(1102)に始まったとされる銚子大神幸祭が、20年に一度の開催となったことから、その間に2年に一度、東大社(東庄町)から桜井浜までみこしの渡御を行う、小規模な御神幸として開催されるようになった、と伝えられています。

東大社を出発したみこしは、町内を練り歩いた後、桜井町公園の川岸に設けられた鳥居をくぐって川に入り、担ぎ手たちから水しぶきを掛けられて清められました。

当日はあいにくの荒天でしたが、白装束に身を包んだ氏子たちによる勇壮なみこしの渡御を見ようと、大勢の観光客が訪れていました。

人のうごき 平成24年4月1日現在 カッコは前月比

■人口 68,125人(-307人) ■男 32,931人(-149人) ■女 35,194人(-158人) ■世帯 26,884世帯(-40世帯)
3月中の人口動態 ●出生24人 ●死亡115人 ●転入など161人 ●転出など377人



2012.5 広報ちようし 20